



生活リハビリクラブが考える「生活リハビリ」

生活リハビリクラブ ケアの理念

その1 「生きる意欲を活かす支援」

その2 「ケアの4原則の徹底」

生活リハ ビリクラブ
ケアの理念・ケアの4原則

気づき

ひとりひとりの想いや変化を一緒にわかり合えるように、何気ない日常や会話を大切にします。

- 本人を知る（基本の情報+事業所でのアセスメント+日々の「気づき」）
- あらゆる側面を知る（出身地・趣味・職歴・旅行がしたい・映画が見たい・結婚式に出たい・歩きたい）
- エピソード・会話の中の気づき（「～したい」「～するよ」を聞き逃さない）
- 違い（変化）への気づき
- スタッフの人間性・感性を磨く（興味や関心を広く持ち利用者に寄り添える引き出しをたくさんもつ）
- 連携・気づきの共有（気づきノート）

カラダ

日常生活の動作を大切にするケアをします。

- 身体と心の両面から一人ひとりの人生を幸せに過ごすことに視点を置く
- 今日できたことが明日もできるように、日常生活の継続を支援する
- 毎日の生活の動作がリハビリである
- 利用者ができることを見極めて能力を引き出すように支援する
- 生活環境をイメージした機能訓練（段差・布団・座卓…）
少しの工夫（高さ調節・福祉用具等の活用）

尊重

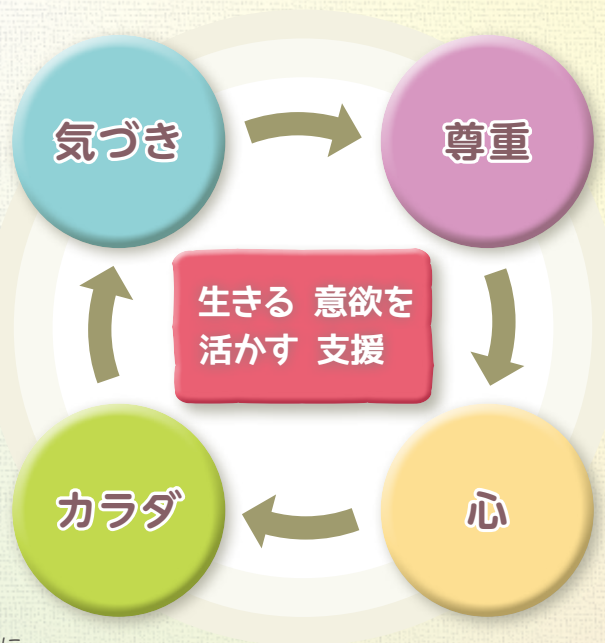
ひとりひとりの気持ちを大切に、一方通行でなく双方向のケアを目指します。

- 信頼関係・きめ細やかな対応＝人として対等である＝双方向の支援
- ケアは「作業」ではなく「生活」
- できないことを無理に言わない（価値観を認める）
- 本人の思いを大切に扱う＝共感する
- 個々の利用者に対応する（一律ではなく個別ケア）
介護する・される関係ではなく、人として対等

心

気持ちが動けば身体が動く。私たちは「心」を動かすケアをします。

- 以前できていたことができなくなる高齢者の心理（挫折感・無力感・情けない・戻りたい・諦め・うらやむ・ねたむ・恨む）失われてきたもの（元気・やる気・プライド）の奥にある「いくつになっても人の役に立ちたい」などの一人ひとりの思いを知ること
- 内発的動機に働きかける
- 生きる目標・生きる喜び（目的をもつ）
- 承認されることで自信の回復
- ひとつの自信から次につながる



● ハーモニカ演奏でいきいき！

ストーリー

Aさんは会社を経営していた。ハーモニカの趣味があったが、認知症になり吹くことは無くなり、徘徊や転倒の繰り返しがあったため、デイサービスの利用が始まった。



● 麻雀を通して人と交流ができるようになりました

ストーリー

Bさん（男性）は人づきあい苦手（統合失調症）訪問で掃除のサービスのみ利用を続けていた。アパートのお風呂に入れず、ケアマネに勧められ、デイサービスでお風呂だけの利用が始まった。

